

2026 年度 国際漁業学会 (JIFRS) 大会

松井隆宏（東京海洋大学）・山田二久次（三重大学）・事務局

2026 年度大会は、三重大学にて下記の通り実施します。多くの会員、関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

会 場：三重大学生物資源学部（三重県津市栗真町屋町 1577）

日 時：2026 年 8 月 29 日（土）～30 日（日）

日 程：8 月 29 日午前：各種委員会・理事会（125 室）

午後：シンポジウム（13:00-17:30、218 大講義室）

（漁村・地域活性化の多様な展開）

夜：懇親会（18:00-20:00、生協 2 階レストラン「ばせお」）

8 月 30 日午前・午後：特別セッション・個別報告（09:00-14:30、219、220 室）

午後：総会（14:45-15:30、218 大講義室）

参加費：一般会員 2,000 円

一般非会員 3,000 円

地元漁業関係者や学生は無料

懇親会費：一般 6,000 円、学生 3,000 円

◆2026 年度大会シンポジウム

テーマ：漁村・地域活性化の多様な展開

趣 旨：水産庁では、「海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、（中略）地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの」と定義し「海業」を推し進めているが、現実の海や漁村を含む「地域資源の活用」は、「地域のにぎわいや所得と雇用」に縛られず多様な展開をみせている。本シンポジウムでは、海や漁村を含む地域の活性化を広い視野から捉え、その多様な展開の実際および意義と可能性について検討したい。

座 長：松井隆宏（東京海洋大学 准教授）

報告者

報告 1：大屋進之介（東京海洋大学 博士後期課程）・山田二久次（三重大学 准教授）・松井隆宏（東京海洋大学 准教授）

「漁村での暮らしにおける住民の価値評価ーベストワーストスケーリングを用いてー」

報告 2：千田良仁（皇學館大学 教授）

「日本の伝統文化を活用した地域活性化」

報告 3：友廣裕一（シーベジタブル 共同代表）

「海藻で、海も人も地域もすこやかな循環をつくる」

報告 4：福井逸人（元 鹿屋市副市長）

「一次産業を活かした『楽しい』地域活性化～カンパチダンスでカンパチーノ～」

コメント 1：有路昌彦（近畿大学 教授）

コメント 2：調整中

※報告時間は 1 人 25 分程度で、2 人のコメンテーターからのコメントを挟み、最後に 1 時間～1 時間半程度のパネルディスカッションをおこないます。